

## 平成25年度第4回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要（要旨）

- 日 時： 平成25年7月30日（火） 10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 4F 会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世  
理 事 新谷 弘幸, 桑原 安江, 大森 憲,  
位高 光司, 山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

### 1 開会

### 2 報告等

#### (1) 平成24年度業務実績に関する評価結果について

- 認定看護師数が順調に増加しているが、確保のための特別な取組を行ったのか。
  - ・ 認定看護師が必要な領域については計画的に配置していく必要があると考えているところ、昨年度に認定看護師教育課程に派遣した3名のうち2名が資格を取得するに至った。

また、外部から専門又は認定看護師が市立病院での勤務を希望するようになったことも認定看護師数の増加要因と分析しているが、これは市立病院において認定看護師等に対する支援体制を整備してきたことが背景にあると思われる。具体的には、認定看護師による組織横断的な活動を可能としたことや、個別の執務室の確保、学会等の年会費や出張に関する補助等が挙げられる。

法人設立前には認定看護師や学生実習指導者の在籍数が少なく、人材育成に関してあまり積極的に取り組めていなかったが、法人発足時から一貫して人材育成に注力してきたこの2年間の成果が、数字で表れたものであると考えている。
- 大項目における評価基準は。評価5には具体的な基準はないのか。
  - ・ 評価委員会が定めた「地方独立行政法人京都市立病院機構 年度業務実績評価実施要領」に従い、評価A又は評価Bの小項目の割合が概ね9割以上であれば大項目は評価3となり、すべての小項目が評価A又は評価Bであれば評価4となる。また、評価委員会が特に認める場合は評価5となる。
- 前年度評価と比較して、評価が下った小項目が2つであることに対して、上がった小項目が5つあったことは、順調な成果が出ていると評価できる。
- 自治体病院のモデルケースとなるような病院運営を目指してほしいと、評価委員会において全体評価の総括が行われている。これは当法人における自治体病院としての運営が評価されたものと思われるが、具体的にはどのような点がモデルケースとなるのか。
  - ・ 都市型急性期病院である市立病院と地域包括ケアを实践するべき地型の京北病院という、相反する性質の2病院を円滑に運営していることが全国的にも注目されている点である。

地方独立行政法人化に当たり、京北病院を一部、介護療養型老人保健施設に転換すること等で急性期病院からの軌道修正に成功したこと、及び、市立病院において、単純に収益の向上に留まらず、感染症医療や災害医療といった採算性の低い分野についても、自治体病院の責任として担うという方針を明確にしていることが評価されたものと考えられる。

- 評価委員会の講評において、認定看護師が疲弊しない取組を進めること、及び、PFI 事業において委託業者ごとのサービスの同質性を担保することについて言及された趣旨は。
    - ・ ともに市立病院の実態に照らし合わせて言及されたものではなく、一般論として忠告されたものである。前者については一般的に認定看護師に業務が集中する傾向があることから、後者については他病院において PFI 事業の課題等が浮き彫りとなった事例があったことから言及されたものとする。
- なお、市立病院では、感染管理認定看護師の複数配置を実施済みである。

## (2) 京都市の給与減額措置実施に係る対応について

### (3) 手術用支援ロボットの購入契約について

- 手術用支援ロボットを使用するには特別な訓練が必要なのか。
  - ・ 使用に当たっては、認定資格制度が設けられており、専門の研修認定施設で受講し、資格を満たした医師のみが使用が認められる。市立病院で第一症例を実施予定の泌尿器科においては既に2名の医師が資格を取得しており、他科においても資格保有者は在籍している。
- 導入に当たり、投資回収の見込みはあるのか。
  - ・ 現在、保険が適用できる手術が限定されていることから、収益面で考慮した場合、すべての疾患で保険適用対象とされない限り、手術用支援ロボット単独で収支黒字を達成することは困難であるが、機器単体での採算面を考慮しても、導入することで得られる効果は大きいと考えている。なお、今後、全国的にも導入施設は増加すると推定される。

### (4) 経営状況月次（6月分）及び第1四半期報告について

- 順調な経営状況と思われる。
  - ・ 第一四半期については、計画どおり順調な運営が実施できている。市立病院に関しては診療単価がほぼ安定し、診療収入の大きな上下変動がなくなった。引き続き着実な経営を進めたい。

### (5) 平成24年度患者満足度調査結果について

- 自由記述で寄せられた意見にはどのようなものがあるか。
  - ・ 接遇に関して、職員によって個人差があるとの意見が目立った。また、利便施設について寄せられた意見も多かった。
- 予約をしたにもかかわらず待ち時間が長いことについては患者の不満が強いと思われる。
  - ・ 現在の市立病院の予約システムについては十分な機能を発揮できていない状況にあり、予約時間が守れていないことに関しては大きな課題と認識している。本館の改修が完了した際には、予約システムを含めた外来機能を一新できるよう、現在、必要な準備を行っているところであり、内科については、再診患者の完全予約制導入を目指している。

個々の診療に時間がかかることを踏まえた予約システム及び診療部の体制構築が重要であるとする。
- 「どちらでもない」と回答した患者については、心理状態により満足又は不満足のものにも属する可能性がある。この領域の患者を不満足にさせない必要がある。
  - ・ 平成23年度以前の患者満足度調査では、4段階評価形式を採用していたため、満足度が高い結果が出る傾向にあったが、5段階評価形式に変更したことで、真の満足度が顕在化したと考えている。

- 市立病院へのイメージにおいて、「改革的」と答えた患者の割合が低いことについては、どのように捉えているか。
  - ・ 課題に対する改善の迅速性や改善手法，又は改善に向けた職員の熱意などを総合的に鑑みて改革的であるかどうか評価されたものであると考える。患者から改革的であると評価されるためには，課題の解決に向けて，一部の職員だけではなく，全職員が一丸となって取り組む風土づくりが必要である。

また，主観的な問題として，建物自体が与えるイメージも強いと思われる。新館が開院したが，今後，北館が除却され，庭園や駐車場が整備された段階では，病院に対する感じ方も大きく変化するのではないか。
- 外来患者満足度調査では，医師等の医療者に対する評価は高いが，受付や食堂，売店等に対する評価が低い。改善が必要ではないか。
  - ・ 調査当時は患者の評価どおり，決して質は高くなかったかもしれないが，利便施設の充実により，大きく変化したと思われる。
- 委託業者や派遣職員による患者への対応が，患者満足度調査において数字として表れることになるので，病院において委託業者等に対する指導，教育を通じて適切に管理することが非常に重要である。
  - ・ 病院のモニタリング能力を高めることで，委託業務等の内容について適正に評価できるよう引き続き努める。

### 3 閉会